

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和
新潟県山岳協会
新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野巨寛
TEL 0258-52-3998

平成22年度 救急法

セルフレスキュー講習会に参加して

浅野 巨寛 (朝路の会)

新潟県山岳協会主催・遭難対策委員会主管にて「平成22年度救急法、セルフレスキュー講習会」が開催された。日程は7月11日の8時30分～15時30分の予定で燕・弥彦消防本部・吉田消防署を会場として行われた。

受付の後、井委員長からの日程説明があり、救急法の講習に入るまえに豊栄山岳会会員の方による、去る4月初旬に二王子岳で起きたアクシデントの顛末の説明があった。春めいた里と違い1500mの山頂では天候の変化によってはいつでも厳冬に逆戻りする可能性があることは周知しているつもりだ。特に前線が通過した後の急激な気温の低下と強風&降雪の恐ろしさは身につまされる思いだ。日帰りの予定だったが幸い小屋の中に張ったテントの中で落ち着いて待機することが出来たことで最悪の結果を回避出来

たことは幸いといえる。

日帰り登山とはいえ装備・食料・予備日数・計画書など、特に自宅に計画書の控えを置くなど、重要性を考えさせられた体験談であった。救急法は吉田消防署の原、草野、山崎救命士がまず応急手当について「1」救命 「2」悪化

防止 「3」痛みの軽減、が目的であると説明があった。

テーピング・三角巾・副木・止血の方法の紹介があり、参加者を3班に分けて「心肺蘇生法・AED」の説明と全員による実技に入った。人の集まる場所や建物などの目につく所に設置してあるのと県山協遭難対策委員会が毎年行われる講習会で周知されつつある「AED」だが、講習会や所属団体の伝達報告会で実際に器具に手をふれ反復練習が必要であろう。

今回は8歳以上の成児と仮定し、救急車がくるまでの

処置ということで各自が実技をできるよう3班に分かれての講習となった。(1) 反応の確認・肩などをたたいて呼びかける。(2) 助けを呼ぶ・119番通報、AEDを持つてきてもらう。(3) 気道の確保。(4) 2回息をふきこむ(人口呼吸)。(5) 胸骨圧迫・30回連続(1分に100回のテンポで)。以上の行動を行い、AEDがきたら装着してスイッチを入れたAEDの指示にしたがい救急行為をしながら救急士のくるのを待つ。

午前中を参加者は熱心に内容をくりかえし反復して身につけていた。山にはまだAEDをもつて行けないかもしれないが、応急手当を必要とする場合もあろう。詳しい資料も配布されており講習会参加者に問い合わせてほしい。

午後からは「平成21年中における山岳遭難の概況」と題して新潟県警本部・山岳遭難救助隊事務局の玉木大二郎氏からお話があった。全国の山岳遭難発生状況としては

○発生件数1676件 ○遭難者数2085人(うち死者・行方不明者 317人)であり、発生件数、遭難者数、死

者、行方不明者ともに昭和36年以降、過去最高を示した。山岳遭難の発生状況は増加傾向にあり40歳以上の遭難者が増加している。目的別にみると登山(ハイキング・スキー登山・沢登り・岩登りを含む)山菜、キノコ採りが多く全体の89・9%を占めている。態様別には、道迷い・滑落・転倒が多く全体の71・5%を占めている。県内の遭難状況の発生状況も同様な%で推移しているが詳しくは新潟県警本部のホームページを閲覧してほしい。

お話のなかで感じたことは、山岳遭難の大部分は未組織登山者や山菜、キノコ採り、などによる初歩的なミスが多い



クレムヘイスノットを学ぶ



ザックを使った担架

が、あらためて季節による気象条件・装備・食料・経験などを加味して安全な計画書を作成、提出したいものだ。また「計画書のコピー」や「マーカーなどでルート取りした地図やガイドブック」を留守を守る家族にたくしておきたい。

具を最大限有効につかう技術だから参加者は熱心に、支点のつくる・支点にロープを固定する・やロープを手がかりにするフリクションノットの結束や実技を確認していた。確保やビレイに有効な「クローブヒッチ」や「ムンターヒッチ」は急斜面の登下りなど多様に使い、反復してしっかりと身につけておきたい。

盛り沢山の今回の講習の最後は新保雅稔副会長が講師となった事故者・負傷者の搬出法だった。山では地形的な制約や問題があるため選べる手段は限られてくる。そこで事故者を安全な場所へ移動させる種々な「背負い搬送」方法や「ロープバスケットをつくる」「ロープ担架をつくる」「ザックで担架をつくる」「ウェアで担架をつくる」

「ふたり以上で運ぶ」など多種な方法を受講した。今回の講習会は所属団体での報告と内容の伝達とともに折ある度の復習が必要だと思つた。

最後に井委員長の開会挨拶のなかでの「ザックを背負つて出掛け、ザックを背負つて帰る」の言葉が印象に残った。

中国・青海省 玉樹県大地震 の現場訪問報告 『1』

新潟県山岳協会副会長 片桐 一夫

4月14日午前7時49分、青海省玉樹チベット族自治州の州府がある玉樹県結古鎮は、マグニチュード7.1の大地震に襲われた。この地震は、プレート内で断層が横ずれした直下型で、18秒間破壊が継続したとみられ、小刻みに揺れて周期が短いために低層建築に大きな被害をもたらした。地震のエネルギーは1995年の阪神淡路大震災と同程度だそうである。即日、日本のテレビでも報道があり、新潟県山岳協会は青海省登山協会と兄弟協定を結んでいることでもあり、黙っているわけにも行かない。2年前の四川省大地震のシーンが頭によみがえつてしまった。青海省で起きた地震に対して、協会では4月28日に常務理事会が開かれてその対応が議題となった。急な作業でもあり、協会加盟68団体に文書で募金を呼びか

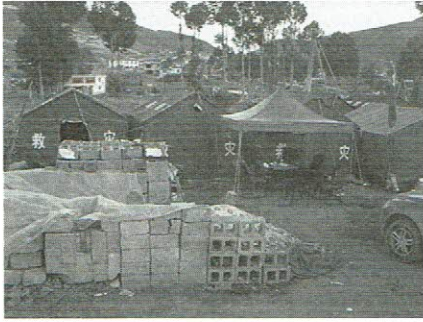
けてもらったが、はたして情報が行き届いたか心配でもあった。6月11日に再び理事会が開かれ、開設された「義捐金」口座には167000円ほどが集まっており、長野県山岳協会、新潟県山岳協会からも協力が考えられていたため、理事長裁定で30万円を用意することになった。こうなれば、お金を送りつけるだけでは気持ちが届かないと考えると、5月下旬に私は現地訪問を決心して、航空券の手配を依頼していた。私一人で現地訪問を考えたのだが、それを聞きつけた櫻井理事から同行を申し入れられた。私は喜んでこれをお受けして二人で現地訪問となったのである。出来るならば、地震現場も訪問して被災された住民の方々

を励ましてあげたいと思つていたところ、その幸運が転がり込んできた。青海省登山協会の上部組織である、青海省体育局の馮建平局長が、自分の専用車を運転手付きで貸してくださるといふ。ありがたかった。

翌日、眠い目をこすりなが



奨学金を贈呈



玉樹県地震地のテント場

ら登山協会秘書長室に出向き、私は次の条件を伝えた。新潟県山岳協会では、加盟団体及び関連の方々にお見舞いを呼びかけ、わずかではあるが、30万円を持参したこと。このお金は、玉樹県で地震災害に見舞われたチベット族の子供たちへ『勉強のために使ってもらいたいこと』。その子供たちは地震で両親を失って孤児であること。出来れば、その子供たちに私自身が会ってお金を渡しながらかましの言葉を掛けたいこと。対象は5名から7名とした。郭秘書長は、この申し出を快く理解され、同意していただいた。

午後からは、我々の滞在している「体育賓館」に馮建平局長が奥様を伴われ、面会に来てくださった。私は、『わずかなお金しか持って来れなかった』と申し上げたが、局長は、『いやいや、それよりも来てくれたことがうれしい』と率直な言葉をかけてもらい、気持ち熱くなってしまった。青海省玉樹県は、西寧より820kmの距離にあり、途中、5回ほど標高4500m前後の峠を越えなければたどり着けない。最も高い峠は、4824mだった。崑崙峠よりも高い。高度障害が心配された。18日、車の整備に時間がかかり、西寧を出発できたのは午前10時になっていた。

ドライバーの呉さんは、運転が上手い。高速道路を時速100kmを越えるほどのスピードで走り、600kmほど進んだところで、車に異変が起こってしまった。ドイツ車の4WDであったが、ギヤの変換が出来なくなり、やむなく唯一入る1段だけでゆっくり進んだ。玉樹県結古鎮には午後10時を回ってようやくたどり着いた。

以下次号へ

成功させよう！

◀ **全国自然保護総会** ▶

—— 高柳 じょんのび村 ——

9月11日(土)~12日(日)開催



新潟100名山

新潟100名山

新潟100名山

踏破せよ 新潟「百名山」

— 新潟県山岳協会監修 —

『新潟 100 名山』

A 5 版 411 頁 2,600 円 + 税

★ 発売中!

☆ 著者購読割引あり

海外・国内旅行、主催・手配

JUMPING TOUR

ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第553号・IATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員

本社 新潟県長岡市東町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

☎ (0258)33-7123

☎ (025)246-2266

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス

ICI 石井スポーツ

新潟店

新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134代

営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

越後の山に見られる
変種植物

むささび会 加藤 明文

◆ オヤマノエンドウ属
④8 オヤマノエンドウ

oxytropis



姉妹品種 エゾオヤマノエンドウ
大雪山 7月10日



オヤマノエンドウ
飯豊連峰 7月10日

南北アルプスなど高山に産し本県では飯豊連峰に産する。学名 Japonica で北海道にはエゾオヤマノエンドウ (S. sericea ~絹毛のある) が産し内地産と共に姉妹になる。この2種の母種はヨーロッパの高山帯に産する nigrescens (黒くなった) でいずれも旗弁だけが異常に大きい種。属名オキシトロプは回転して尖ったの意。漢字名「御山の豌豆」とは高山の豆の意。

編集こうき

▲新潟県では県警と県防災ヘリの4機が救助活動に当たっているようだ。

2009年度の山岳遭難では100回を上まわる出動回数だったという。今年に入っても中高年の登山ブームの影響や山菜採りの事故などで出動数も増加傾向だという。また遭難騒ぎの度に地元の警察や消防、山岳関係者らの組織する救助隊が悪条件をおして現地に向かうのだが、救助活動がどれだけ危険を伴うものか入山者はそのことにも思いを巡らして欲しいものだ。

▲県内では10年前、旧入広瀬村の浅草岳での事故が思い出される。県警のヘリと連携して「山菜採り」の救助活動をしていた4名がブロック雪崩に遭遇してしくなった事故だった。亡くなった方の中には山岳関係者とも親しい方も含まれていて悲しい思いをしたのが昨日の事のように思い出される。

▲秩父市の山中で起きた沢登り中の遭難事故はヘリの乗員や翌日の報道関係の人をまき

こんだ悲惨な遭難事故となった。沢登りをしていたパーティーの女性がへ滝つぼへ滑落したとの報道。発端らしいが、リーダーの説明責任は大であろう。報道関係者の遭難事故は死者に鞭打つ気はないが論外だ。

救助活動は迅速さが求められるが出動する現場は天候状況も悪く、地理的条件も難所が大半であろう。ヘリにとって切り立った斜面沿いは不安定な気流と激しい上昇気流が危険視されていたし、梅雨時や秋の山中での低空やホバリングの危険性は以前から指摘されていた。「いつでも救助してもらえろ」という安易さは「遭難者はヘリをタクシー代わり」などと疑問の声が捜索の側から出なければよいのだが。救助の出動のマニアルを見直されてもしかたがない。

会報・編集 浅野



JTB Your Global Lifestyle Partner

70th ANNIVERSARY 1948-2018

JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL: 025-224-2201 FAX: 025-229-5775

http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail: h_mitani388@jtb.jp

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー



パーマーク

長岡市西宮内2-97 (長岡市役所裏通り)
TEL: 0258 (37)1200 FAX: 0258 (33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

http://www.parrmark.co.jp